



Topic >> 消防本部・消防署開設



■初代消防庁舎(現、小野市上本町250番地)



■昭和43年当時の職員

■消防ポンプ自動車A1級1台を受納(昭和43年)



■救急自動車A級を配備し、救急業務を正式に開始(昭和41年)



■消防相互応援協定を加古川市と締結(昭和42年)

■昭和42年の出初式



Ono city fire department Time Line

1965年(昭和40年)

- 4月 消防本部及び消防署を「小野町東野中260番地」に設置し、職員17名、水槽付消防ポンプ自動車1台で発足
- 消防団大開分団を新設 消防団員1,414人となる
- 市長が初代消防長に就任(兼務)
- 山口廸一氏が第2代消防団長に就任

1966年(昭和41年)

- 4月 消防吏員2名増員
- 12月 救急自動車A級を配備、救急業務を開始する
- 市長が第2代消防長に就任(兼務)

1967年(昭和42年)

- 4月 消防吏員2名増員
- 7月 消防相互応援協定を三木市と締結
- 8月 消防相互応援協定を加古川市と締結
- 10月 消防吏員1名増員

1968年(昭和43年)

- 4月 消防吏員3名増員
- 消防団員の定員を1,144人とする
- 東部特設分団(小田)を新設、消防ポンプ自動車A2級を配備
- 5月 日本損害保険協会から消防署に消防ポンプ自動車A1級(火災保険号)の寄贈を受ける
- 7月 小野市、三木市、加古川市で消防応援協定事務連絡協議会を締結

1969年(昭和44年)

- 4月 消防吏員1名増員
- 9月 消防法施行令の一部を改正する政令(昭和44年政令第97号)の公布により、同月1日から救急業務が義務化
- 10月 市長兼消防長の退職に伴い、消防次長兼署長が第3代消防長に就任





1970年-1974年
(昭和45年～昭和49年)

Topic >> 消防本部・消防署の庁舎移転



■消防庁舎移転(現、小野市王子町806番地の1)



■救急自動車(B3型)ニッサンシビリアンを配備(昭和49年)

■化学消防ポンプ自動車 I 型を配備(昭和46年)



■消防相互応援協定を加東郡消防事務組合と締結(昭和47年)



■河合中町木工工場火災(昭和45年)



■消防庁舎の竣工式(昭和46年)

Ono city fire department Time Line

1970年(昭和45年)

- 2月 消防相互応援協定を加西市と締結
- 4月 消防吏員2名増員
- 消防団の機構を改正し、副団長を13人から3人に、56分団を6分団56部に編成
- 10月 消防相互応援協定を東条町と締結
- 11月 東分団特設部車庫及び詰所を新築
- 12月 消防庁舎建設に着手

1971年(昭和46年)

- 3月 化学消防ポンプ自動車(I型)を配備
- 4月 消防吏員2名増員
- 5月 消防相互応援協定を社町と締結
- 消防庁舎完成(鉄筋コンクリート造3階建、建築面積368.12m²、延面積820.08m²、総工事費5,100万円)
- 6月 消防本部、消防署及び消防団本部の所在地を「王子町806番地の1」に改める
- 予備救急車の寄贈を受ける

1972年(昭和47年)

- 4月 特設分団を中分団特設部(2部)とし、南分団来住部、同下来住部をもって新たに南分団特設部を設置
- 消防団機構は、5分団56部、消防団員の定員が1,060人とする
- 5月 消防相互応援協定を加東郡消防事務組合と締結
- 12月 西分団特設部に消防ポンプ自動車A2級を配備
- 南分団特設部に消防ポンプ自動車A2級を配備

1973年(昭和48年)

- 4月 消防吏員2名増員
- 6月 田中栄吉氏が第2代防火協会長に就任
- 10月 兵庫県危険物安全協会小野支部を発展的改組し、市内事業所等で「小野市防火協会」を設立

1974年(昭和49年)

- 1月 救急自動車(B3型)を配備
- 3月 東分団特設部、小田上部、小田下部をもって新たに東分団特設部を設置。消防団機構は、5分団54部となる
- 4月 消防吏員3名増員
- 9月 中分団特設部に消防ポンプ自動車A2級を配備





1975年-1979年
(昭和50年～昭和54年)

Topic >> 育ヶ丘婦人消防隊発足



■育ヶ丘婦人消防隊発足(昭和54年)



■消防ポンプ自動車A1級の受納
(昭和54年)

■救急自動車RH42VB型トヨタハイエース受納(昭和52年)



■台風17号により堤防が半壊した万勝寺川(昭和51年)



■折たたみ式アルミボート8人乗りSS-14型
1隻受納(昭和53年)



■消防ポンプ自動車A2級を配備(昭和50年)

Ono city fire department Time Line

1975年(昭和50年)

- 3月 消防ポンプ自動車A2級を配備
- 4月 第4代消防長が就任
小野市で初めて軽四輪積載車を北分団喜多部、西分団河合西部に配備

1976年(昭和51年)

- 4月 第5代消防長が就任
吉本貞雄氏が第3代消防団長に就任

1977年(昭和52年)

- 2月 水槽付消防ポンプ自動車A2級を配備
車庫棟の寄贈を受ける
陸上自衛隊青野ヶ原駐屯地と小野市、加東市、加西市の各消防署及び消防団が申し合わせをする
- 4月 伊藤只雄氏が第3代防火協会長に就任
- 11月 小野ライオンズクラブより救急車の寄贈を受ける

1978年(昭和53年)

- 1月 折りたたみ式アルミボート1隻、携帯無線機4基、消防水利標識400個の寄贈を受ける
- 4月 消防吏員2名増員
- 8月 消防長が市民生部長兼任から専任となる

1979年(昭和54年)

- 1月 C級救急指令装置を設置
- 2月 サイレン吹鳴制御装置及び市内9か所に子局を設置
- 4月 育ヶ丘婦人消防隊発足
- 11月 普通貨物自動車を配備
日本損害保険協会から消防署に消防ポンプ自動車A1級(火災保険号)の寄贈を受ける



1980年-1984年 (昭和55年～昭和59年)

Topic >> 20m級屈折はしご付消防ポンプ自動車配備



■20m級屈折はしご付消防ポンプ自動車A1級配備(昭和59年)



■消防本部訓練塔を新築(昭和57年)



■消防本部消防車庫竣工(昭和57年)



■ニチイ小野店で消防防火展開催(昭和57年)

■一日消防長・署長で駅前にて防火広報活動(昭和55年)



■商店街防火パレード(昭和56年)



■防火宣伝広報に出発する消防車(昭和58年)

Ono city fire department

Time Line

1980年(昭和55年)

- 3月 消防本部に指令車を配備
- 4月 消防吏員1名増員
- 10月 消防本部に二輪車(50cc)を配備
- 12月 消防吏員1名増員

1981年(昭和56年)

- 10月 中分団特設部に消防ポンプ自動車A2級を配備
- 12月 日本損害保険協会から救急車の寄贈を受ける

1982年(昭和57年)

- 3月 訓練塔及び車庫棟を新築
- 4月 消防吏員2名増員
- 10月 東分団特設部に消防ポンプ自動車A2級を配備
- 12月 西分団特設部車庫及び詰所を新築

1983年(昭和58年)

- 3月 西分団旭部車庫及び詰所を新築
- 4月 第6代消防長が就任
- 消防本部の機構を課制(総務・警防)実施
- 前田清孝氏が第4代防火協会長に就任
- 12月 東分団特設部詰所を増築

1984年(昭和59年)

- 2月 消防用携帯無線機5W 2基配備
- 3月 20m級屈折はしご付消防ポンプ自動車A-1級を配備
- 4月 消防吏員2名増員





1985年-1988年
(昭和60年～昭和63年)

Topic >> 幼年消防クラブの設立



■北辰保育園幼年消防クラブ発足(昭和60年)



■女性一日消防士研修開催(昭和60年)

■消防ポンプ自動車(CD-I型)を配備(昭和63年)



■防衛施設内で林野火災発生(昭和63年)



■消防大会での幼年消防クラブ演技



■化学消防ポンプ自動車II型を更新配備(昭和60年)

Ono city fire department Time Line

1985年(昭和60年)

- 2月 化学消防ポンプ自動車(II型)を更新配備
- 4月 第7代消防長が就任
- 消防吏員2名増員
- 水防倉庫を新設
- 高山町婦人消防隊が発足

1986年(昭和61年)

- 4月 上柳泰一氏が第4代消防団長に就任
- 5月 小野ライオンズクラブより殺菌灯付ロッカー(救急用)の寄贈を受ける
- 10月 県内共通波基地局設備を整備

1987年(昭和62年)

- 6月 (財)日本防火協会より広報車の寄贈を受ける 救助用マット型空気ジャッキを配備
- 10月 小野ライオンズクラブより救急車の寄贈を受ける 気象観測装置を整備

1988年(昭和63年)

- 1月 西分団特設部に消防ポンプ自動車BD-I型を配備
- 2月 消防本部に消防ポンプ自動車CD-I型を更新配備
- 3月 「消防訓」を制定
- 4月 消防吏員2名増員 指令車を更新配備
- 8月 消防本部に小型動力ポンプ積載車を配備 兵庫県広域消防応援協定を締結 救助用油圧切断機を配備
- 11月 南分団特設部に消防ポンプ自動車CD-I型を配備





1989年-1994年
(平成元年～平成6年)

Topic >> 消防署南分署新築



■南分署竣工(平成4年)



■消防署南分署新築工事着工(平成3年)

■南分署に小型動力ポンプ付水槽車兼
薬液搬送車を配備(平成5年)



■救助隊発足(平成元年)



■消防緊急情報システム(I型)を整備
(平成2年)

■南分署開署式(平成4年)



Ono city fire department Time Line

1989年(平成元年)

- 1月 水槽付消防ポンプ自動車I-A型を更新配備
- 4月 消防吏員2名増員
- 水難救助用ボートを配備
- 救助用油圧資機材を配備
- 8月 兵庫県防災総合訓練を匠台(小野工業団地)で実施
- 貨物自動車を更新配備
- 11月 兵庫県共済農業協同組合連合会より救急車(2B型)の寄贈を受ける
- 12月 救急車搭載用防振ストレッチャーの寄贈を受ける
- 中分団特設部に消防ポンプ自動車CD-I型を配備

1990年(平成2年)

- 1月 吉田博省氏が第5代消防団長に就任
- 3月 消防緊急情報システム(I型)を整備
- 非常用自家発電設備を整備
- 4月 第8代消防長が就任
- 消防吏員3名増員
- 6月 加東行政事務組合と消防相互応援協定を締結

1991年(平成3年)

- 3月 消防無線バンダマスト25m及び全国共通波を整備
- 4月 第9代消防長が就任
- 消防吏員3名増員
- 河合水防倉庫用地(738m²)買収
- 12月 第10代消防長が就任

1992年(平成4年)

- 2月 南分署新築(鉄筋コンクリート造2階建、建築面積510.85m²、延面積678.85m²)
- 3月 署所端末装置及び消防無線(救急波)整備
- 日本自動車工業会より救急自動車(2B型)の寄贈を受ける
- 石油貯蔵施設立地対策等交付金により小型動力ポンプC1級配備
- 4月 消防署南分署開設
- 機構改革により、予防課を設け、南分署開設に伴い3課1署1分署13係となる
- 消防吏員4名増員
- 5月 河合水防倉庫用地造成工事完了
- 9月 小野ニュータウン婦人消防隊が発足

1993年(平成5年)

- 1月 河合水防倉庫完成
- 石油貯蔵施設立地対策等交付金により消防用無線電話装置一式整備
- 3月 消防庁舎改修工事完成
- 東分団特設部用地拡幅に伴う用地取得
- 南分署に小型動力ポンプ付水槽車兼薬液搬送車を配備
- 南分署に薬液タンク庫増設、化学消火薬剤10KL備蓄
- 化学消火資機材一式を整備
- 4月 消防吏員4名増員
- 8月 日本損害保険協会より消防ポンプ自動車CD-I型の寄贈を受ける
- 11月 中分団特設部に消防ポンプ自動車CD-I型を更新配備

1994年(平成6年)

- 2月 救急処置資器材8品目を整備
- 3月 準高規格救急自動車を整備
- 4月 消防吏員2名増員
- 5月 小野市初の救急救命士誕生



1995年-1999年
(平成7年～平成11年)

Topic >> 阪神淡路大震災発生



■阪神淡路大震災で給水活動中の
小野市の水槽車(平成7年)



■神戸市から自衛隊ヘリにより搬送された傷病者を
救急車で医療機関へ搬送(平成7年)



■救助工作車II型を配備(平成7年)



■高規格救急自動車を配備(平成8年)



■2台目の高規格救急自動車を配備
(平成11年)



■神戸市長田区での消火活動(平成7年)

Ono city fire department Time Line

1995年(平成7年)

- 1月 1月17日 阪神淡路大震災起ころる。淡路島を震源とするM7.2の直下型地震により、市内各所に被害をもたらした。
(死者1名、負傷者3名)
当消防本部から神戸市へ応援隊を派遣
(派遣日17～25日、派遣延べ人数計110名)
- 2月 東分団特設部に消防ポンプ自動車CD-I型を更新配備
- 3月 消防緊急通信指令施設(地図検索装置)を整備
- 4月 消防吏員2名増員
- 12月 救助工作車II型を配備

1996年(平成8年)

- 4月 消防吏員2名増員
- 6月 防災救助器具、高度救命処置シミュレーター1式を整備
- 12月 初の高規格救急自動車を配備
県内共通波基地局を整備

1997年(平成9年)

- 3月 耐震性貯水槽飲料水兼用100M型を大池総合公園に設置
山陽自動車道消防相互応援協定を日本道路公団及び兵庫県と締結
- 4月 第11代消防長が就任
消防吏員3名増員
- 6月 対応車を配備
- 7月 指令車を更新配備

1998年(平成10年)

- 1月 全国共通波(第1、2波)基地局消防無線設備を整備
- 3月 化学消防ポンプ自動車II型を更新配備
- 4月 消防吏員2名増員
- 10月 小型動力ポンプ付積載車を更新配備
指揮広報車を配備
- 12月 コミュニティ消防センター(中分団特設部詰所併設)を新築
南分団特設部車庫及び詰所を改装

1999年(平成11年)

- 2月 高規格救急自動車を配備
- 4月 消防団員の定員を874人とする
- 8月 機構改革により、3課1署1分署10係となる



2000年-2005年
(平成12年～平成17年)

Topic >> 消防団女性分団が発足



■消防団女性分団発足(平成13年)



■20m級屈折はしご付消防自動車配備(平成13年)



■女性分団によるポンプ操法



■台風23号で市内各所で水害が発生(平成16年)



■南分署に水槽付消防ポンプ自動車配備(平成17年)



■台風23号で自衛隊の災害派遣を受ける(平成16年)



■普通救命講習を「市民救命士講習会」に名称変更(平成14年)

Ono city fire department

Time Line

2000年(平成12年)

- 4月 小林正幸氏が第6代消防団長に就任
- 6月 伊藤俊博氏が第5代防火協会長に就任
- 12月 西分団特設部に消防ポンプ自動車CD-I型を更新配備

2001年(平成13年)

- 2月 高規格救急自動車を配備
- 4月 第12代消防長が就任
- 消防吏員1名増員
- 消防団女性分団発足
- 小野ライオンズクラブより女性分団旗の寄贈を受ける
- 9月 20m級屈折はしご付消防自動車を更新配備

2002年(平成14年)

- 4月 消防吏員2名増員
- 8月 総合気象観測装置の更新整備
- 8月 消防職員・団員非常招集システムを整備

2004年(平成16年)

- 4月 消防吏員2名増員
- 緊急消防援助隊に登録
- 消防団久保木部を北分団から東分団に編成替えをする
- 12月 資機材搬送車を更新配備

2005年(平成17年)

- 2月 南分署に水槽付消防ポンプ自動車を更新配備
- 3月 下東条地域防災拠点施設(東分団特設部詰所)が完成
- 4月 第13代消防長が就任
- 消防吏員2名増員
- 9月 南分団特設部に消防ポンプ自動車(CD-I型)を更新配備





2006年-2011年 (平成 18年～平成 23年)

Topic >> 東日本大震災で緊急消防援助隊を派遣



東日本大震災で緊急消防援助隊を派遣(平成23年)



■匠台で金属製家具製造工場火災(平成18年)



■大島町で豆腐・油揚製造工場火災(平成20年)



■市場町でエアゾール製造工場火災(平成23年)

Ono city fire department

Time Line

2006年(平成18年)

- 3月 中分団特設部に消防ポンプ自動車(CD-I型)を更新配備
- 4月 消防吏員1名増員
- 7月 加東市と消防相互応援協定を締結
- 9月 兵庫県広域消防相互応援協定を締結

2007年(平成19年)

- 3月 高規格救急自動車を更新配備
- 山陽自動車道消防相互応援協定を締結
- 4月 第14代消防長が就任
- 消防吏員4名増員
- 10月 小野ライオンズクラブより広報車の寄贈を受ける

2008年(平成20年)

- 2月 消防署に水槽付消防ポンプ自動車を更新配備
- 3月 加古川市と消防相互応援協定を締結
- 4月 第15代消防長が就任
- 消防吏員4名増員(内女性吏員1名)

2009年(平成21年)

- 4月 消防吏員1名増員

2010年(平成22年)

- 2月 高規格救急自動車を更新配備
- 3月 通信指令システム(位置情報システム)の導入
- 消防本部庁舎耐震化
- 4月 第16代消防長が就任
- 消防団員の定員を700人とする
- 消防吏員1名増員
- 10月 兵庫県広域消防相互応援協定を締結

2011年(平成23年)

- 3月 三木市と消防相互応援協定を締結
- 3月11日、東日本大震災が起こる。東北地方太平洋沖地震とそれに伴って発生した津波及び余震により東北地方に未曾有の大被害をもたらした。
- 緊急消防援助隊として、当市からも応援隊を派遣(派遣日3月11日～4月21日 42日間、派遣延べ人数計31名)
- 4月 消防吏員1名増員(女性吏員)
- 5月 対応車を更新配備
- 北はりま消防組合と消防相互応援協定を締結
- 10月 消防ポンプ自動車を更新配備し、小型動力ポンプ付積載車を配備



2012年-2015年
(平成24年～平成27年)

Topic >> 防災センター・消防本部竣工



■小野市防災センター開設(平成26年)



■新庁舎移転直前(平成26年)



■台風18号の影響で粟田橋橋脚崩落
(平成25年)



■小野市防災センター建築状況(平成25年)



■小野市防災センター竣工式(平成26年)



■小野市防災センター開設(平成26年)

Ono city fire department

Time Line

2012年(平成24年)

- 3月 高規格救急車を更新配備
- 4月 消防吏員1名増員
石田貢氏が第7代消防団長に就任
- 11月 中分団特設部に消防ポンプ自動車(CD-I型)を更新配備

2013年(平成25年)

- 1月 消防救急デジタル無線 基本・実施設計
- 3月 小野市防災センター起工
- 4月 第17代消防長が就任
消防吏員2名増員
- 7月 軽四資機材積載車を更新配備
- 10月 兵庫県広域消防相互応援協定を締結
- 11月 東分団特設部に消防ポンプ自動車(CD-I型)を更新配備

2014年(平成26年)

- 4月 消防吏員4名増員
小野市防災センター(消防本部・消防署・消防団本部)開設
(鉄筋コンクリート3階建、免震構造 建築面積1,570.06m²、延面積3,087.30m²)
- 消防本部、消防署及び消防団本部の所在地を「王子町809番地」に改める
- 消防救急デジタル無線の運用開始
- 指令システムの運用開始
- 臨時北部救急拠点を開設
- 飛田佳孝氏が第8代消防団長に就任

2015年(平成27年)

- 2月 救助工作車(II型)を更新配備
- 4月 消防吏員2名増員
- 12月 消防庁より消防ポンプ自動車CD-I型の無償貸与を受ける

